



着 | 任 | 換 | 拶 | 3名の教員が着任いたしました。



2020年7月に人間形成教育センターに着任いたしました。

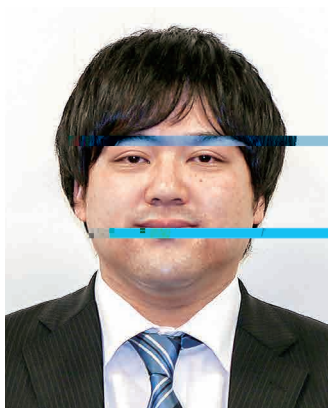
本学では、データサイエンス関連の講義を担当いたします。多くのデータが身の回りに溢れる、いわゆるビッグデータの時代となり、データを活用したビジネスや政策立案が求められており、データを処理し分析するためのデータサイエンスの重要性が高まっています。私はこれまで、国家公務員として公的統計の作成に携わるとともに、スケジューリングなどの最適化問題の研究を行ってきました。こうした経験を踏まえ、データや数理を使って様々な問題・課題の解決に向けて、皆様と一緒に考えていきたいと思っております。ちなみに、四国・愛媛出身ですが、首都圏に20年以上住んでいました。自然豊かで、海の幸・山の幸にも恵まれている鳥取での生活を非常に楽しみにしております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

人間形成教育センター **久保 奨** 准教授



Three important areas of study in the world today are English, business and the environment. They will continue to be essential subjects in the coming decades. They are important for the physical and financial well-being of us all, and for the viability of our life on Earth. Most of the world's conferences, books and research papers on issues related to business and the environment are in English. Students who are currently studying business, the environment and English at TUES will be future business leaders, CEOs and environmentalists. Students at TUES can become leaders in their field of study and will be able to communicate in English. Japan has world-beating ideas and technologies in business and the environment that are copied all over the world. Through English, the students at TUES will help to further Japan's role as a global pioneer and leader. Many students at TUES have already started their journey by collaborating with students at universities in Germany. They are interviewing businesses for their research projects into sustainability. Their efforts will improve our world.

人間形成教育センター **バンヴィル ショーン** 特任准教授

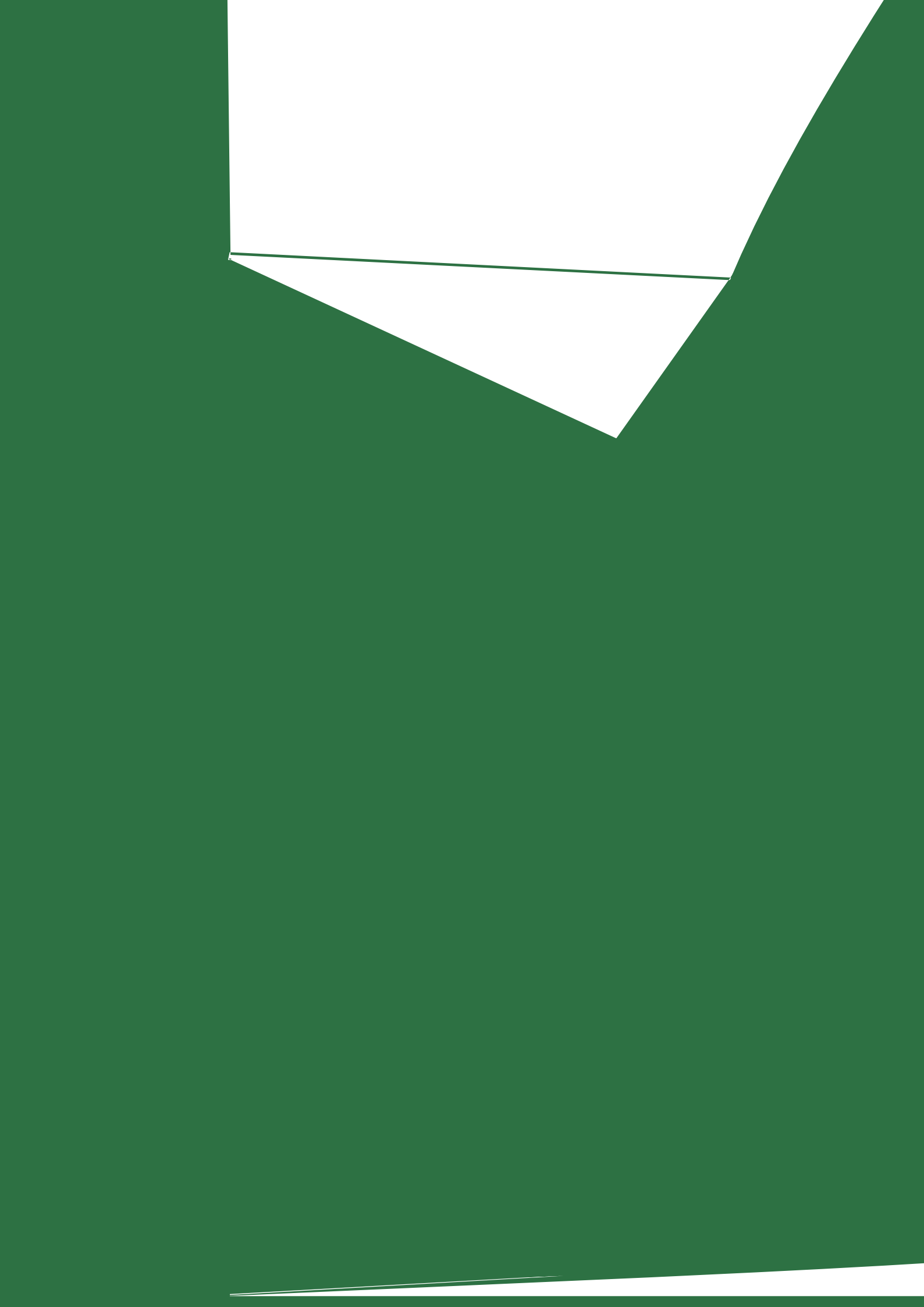


2020年4月に着任致しました。偏微分方程式論を専門としており、またロボット工学に現れる力学系の解析も行っています。本学では情報リテラシ1、微分積分学、線形代数学の講義を担当します。

昨今はデータサイエンス、AIが流行っており、最近では微分方程式をそれらに応用するなど様々な発展を見せています。また、それらに関する産学連携の研究も盛んに行われていることもあり、それらの理解のために数理的能力をもつ人材が求められています。本学は2021年度から副専攻プログラムとしてそれらに対応するものが編成される予定であり、国立大学間の事業である「数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム」の連携校にも承認されました。これらを通し学生のみなさんが社会で活躍できる人材になるお手伝いをしたいと考えています。

人間形成教育センター **小杉 卓裕** 講師







国際交流

本学では、海外大学との交流協定に基づき、海外の学生との交流や歴史・文化体験を通して、視野の広がりや自己成長のきっかけとなる国際交流プログラムを実施しています。

● 本年度は新型コロナウイルスの影響で一部プログラムが中止されています。

● 海外大学との交流協定に基づき、海外の学生との交流や歴史・文化体験を通して、視野の広がりや自己成長のきっかけとなる国際交流プログラムを実施しています。

● 海外大学との交流協定に基づき、海外の学生との交流や歴史・文化体験を通して、視野の広がりや自己成長のきっかけとなる国際交流プログラムを実施しています。

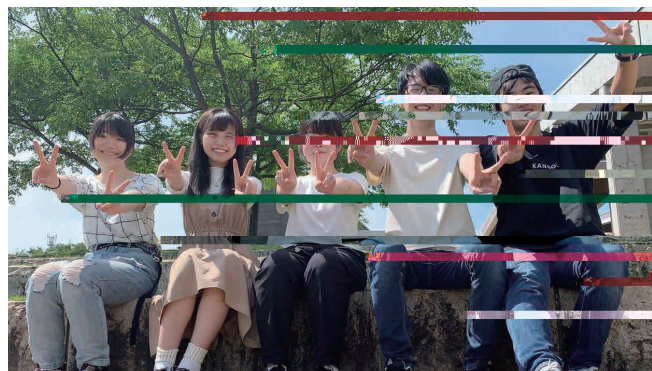


語学留学プログラム

参加するには？



いつでも、いつでも気軽に相談してください。 一般社団法人海外留学協議会
● 海外大学との交流協定に基づき、海外の学生との交流や歴史・文化体験を通して、視野の広がりや自己成長のきっかけとなる国際交流プログラムを実施しています。



まちあそび部

私たちまちあそび部は、2016年に創部された「起業部」の意志を継ぎ、2020年にリニューアルし、「遊びの質でぶっちぎれ!」をコンセプトに鳥取を舞台に大学生にしかできない「あそび」をやっている部活です。

活動内容は特に決まっていません!というも、部員たちが相談しあい、やりたいと思った活動を全員で団結してやっているからです。例えば、地域のイベントに模擬店を出店したり、新入生に向け交流会を開いたり、部員全員で球技大会をしたり、枠にとらわれない幅広い活動をしています。

まちあそび部は今年から心機一転、活動を頑張っています。今後の目標としては、鳥取県中に名を響かせ、公立鳥取環境大学を代表する部活になることです。ぜひまちあそび部の名前を覚えていただくと共に、応援のほどよろしくお願ひします。

代表:米岡 駿裕(経営学部 2年)

(学部、セミ母に学位記の交付を行いました。)

4月4日 入学式の開催中止。

授業開始日を5月11日に延期し、オンライン授業を実施していましたが、6月15日より感染拡大防止に留意し、段階的に対面授業を開始しています。

新型コロナウイルス感染症に伴う学生支援策として学生支援寄附金を開設。

募集期間:令和2年6月19日~令和3年3月31日

新型コロナウイルス

ほかにも、近隣の方をはじめ多方面から、寄附金、食料品、マスクなど様々な形で学生に対する支援をいただいています。寄附いただいた多くの品々は、学友会を通じて学生に配布しています。寄付そしてご支援いただきました皆様に関心より御礼申し上げます。

プロジェクト名

不法投棄「事件」を検証する

プラスチックごみによる海洋汚染の問題が社会的に大きな注目を浴びています。今、社会における「廃棄物管理」のあり方が問われています。「不法投棄」のような不適正処理を撲滅していくことが重要です。このプロジェクト研究では不法投棄対策を学ぶために、過去の不法投棄事件を調べ、その判例について理解を深め、なぜ不法投棄事件が起きたのかを皆で議論しました。

また、不法投棄をなくすための方策についても意見を出し合いました。不法投棄とは、廃棄物処理法第16条「何人も、みだりに廃棄物を捨ててはならない。」という規定に違反する行為です。法律にはたったこれだけしか書いてありません。不法投棄が成立するためには3つの要件「廃棄物」、「みだりに」、「捨てる」を満たす必要があります。1つのグループは「廃棄物」とは何かについて争われた「おから事件」を調べ、2つのグループは「みだりに」、「捨てる」について争点となった事件を調べ、最後のグループは、リサイクルが不法投棄の偽装に利用された事件を調べました。

また、鳥取市の不法投棄パトロールに参加し、実際に不法投棄現場を視察しました。そして不法投棄が多い場所を1カ所選び、不法投棄防止看板を作ることを企画し、皆でデザインを考えました。一般的な不法投棄防止の看板とは違って若い柔軟な頭で考えるとかかなりユニークなアイデアが出ました。このアイデアを元に最終的に鳥取市で制作してもらったのが写真1です。どうでしょうか？ちょっとゾットするデザインになりましたね。実際に設置すると不法投棄が劇的に減ったと喜んでいただいています。プロジェクト研究の成果は、鳥取市の廃棄物行政の担当部局の方に報告し、不法投棄対策の提案も行いました。

写真1 不法投棄防止看板

学生が自分たちで考えたアイデアに対し、実際に廃棄物行政を担っている職員の方から様々な意見を頂き、また議論をすることができました。大学の中で学術的な勉強をするだけでなく、実際に現場が抱えている課題と結びつけることで、実践的な知識を身に付けることができたのではないのでしょうか。

写真2 鳥取市への報告の様子

プロジェクトアドバイザー 環境学部 門木 秀幸 講師

プロジェクトメンバー プロジェクト研究2
環境学部

/ /



マイクロプラスチック調査(鴨ヶ磯)

一般社団法人生命保険協会と寄附講義に関する覚書の締結を行いました

6月23日、本学(学長 江崎信芳)と一般社団法人生命保険協会(代表理事・副会長 小林研一 氏)は、今年度後期から開設する寄附講義の運営に関して覚書を締結しました。

寄附講義の目的は、人生100年時代という超長寿社会を迎え、生活環境や働き方、生き方が多様化していく中で、生命保険等の役割について理解を深めようとするものです。生命保険だけでなく幅広く金融・社会保障等の制度の現状を学び、課題解決に向けて考える姿勢を醸成します。

生命保険協会が全国23大学と連携して開講する寄附講義の一つとなります。経営学部だけでなく、環境学部の学生も保険、金融について知り、どう生きていくか学ぶ機会となることを期待しています。



覚書を締結する江崎学長(左)と小林氏(右)

環境学部徳田悠希講師が平井伸治鳥取県知事へ第61次南極地域観測隊の帰還報告を行いました

7月17日に小林朋道環境学部長と徳田悠希講師が平井伸治鳥取県知事へ第61

次南極地域観測隊夏隊重点研究観測の帰還報告をしました。

徳田講師はサンゴの研究と地球環境の研究の関連性について平井知事に説明し、観測から新たな知見が得られる可能性を報告しました。また、小林学部長からは徳田講師のサンゴ研究における世界的な発見についても紹介されました。

平井知事からはお得意の「ダジャレ」も飛び出すなど、和やかな雰囲気の中で報告が行われました。

最後に平井知事から徳田講師に、研究が大いに進展することを期待しているとの激励の言葉をいただきました。



試料の説明をする徳田講師(右)



記念撮影の様子 平井鳥取県知事(左) 徳田講師(中央)・小林環境学部長(右)

本学食堂で学生の食事費用の一部支援を行いました

新型コロナウイルス感染症拡大による影響で収入減少となり、経済的に困難な状況にある学生に対して、学内外から寄附いただいた新型コロナウイルス感染症に係る学生支援寄附金()を財源に、7月20日から9月4日までの前期授業期間、学生食堂における食事に係る費用の一部支援を行いました。本学の学生を対象に食堂の300円以上の食事に対し、200円の補助割引を行うという支援内容です。

支援を利用した学生からは、「この支援が

開始されてから毎日利用しており、経済的に助かっています。」という声がありました。

寄附いただきました皆様に心より御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症に伴う学生支援策に使用する目的で募集しており、現在までに学内外から多くのご支援をいただいています。寄附金についての詳細は下記本学Webページをご確認ください。
www.kankyo-u.ac.jp/news/2020/20200619001/



支援を利用する学生

本学の公式YouTubeチャンネルを開設しました

8月11日、公立鳥取環境大学公式YouTubeチャンネルを開設しました。現在、下記の動画などを公開しておりますので、ぜひご覧ください。今後も、本学の教育・研究内容などに関するコンテンツを増やしていきます。



キャンパスツアーVR動画
360度カメラを使用し、キャンパス内を紹介します。



環境学部紹介動画
環境学部の学びについて紹介します。

下記URLよりご覧いただけます。
www.youtube.com/channel/UCclvYUH3dsAEItTkxn_8u9w



